



東京都
支部

日本大学通信教育部校友会

大江戸通信

第 86 号 平成 28 年 7 月 1 日発行

東京都支部校友会／広報委員会編集部

連絡先：080-5032-1467

発行責任者：金子栄輔

本部校友会事務局：東京都千代田区九段南 4-8-28

Tel/Fax：03-3234-5858

編集責任者：高木典章

特別インタビュー



関根二三夫通信教育部長

[新任]通信教育部長

関根二三夫教授大いに語る

☆通信教育部に奉職して 30 年☆
☆一筋の道と熱き想い☆

今年の 4 月 1 日付で、通信教育部長に関根二三夫教授が就任された。日本大学ご出身。爾来、一貫して日大通信教育部での指導に当たってこられた。校友会活動にも深い造詣をお持ちである。

就任後間もない関根部長をお訪ねして、大学や校友会への展望、ご自身のパーソナルな話題などについてお聞きした。

もくじ

- 特別インタビュー 1～4
- 平成 28 年度・本部
総会スケッチ 4
- 東京都支部・
定期総会報告 5
- 暑中お見舞い申し上げ
ます。 6～7
- 関東ブロック総会・
茨城県大会概要決まる
..... 8
- 全国ブロック総会・
開催日程 8
- 図書館にご出展
ください 8
- 編集後記 8

《質の高い講義と、学生の積極性を期待》

——このほど、通信教育部長に就任されました。心よりお喜び申し上げます。最初にも部長に就任された抱負をお聞かせ下さい。

関根部長 まず、大学教育に質の保証と維持を図ります。各先生方には、シラバスに沿った質の高い講義をしていただくように伝えています。また、通信教育部の学生は周囲から孤立しがちな環境に置かれていますから、何としても学生を大学全体の輪の中に引き入れて行く、ということが必要だと思います。たとえば夏の「集夏祭」、ここで学生と校友会の皆さんと、大学が一体となった催し物を開催して、学生が積極的に参加できるようなものにしたと考えています。

——先生は長い間、通信教育部に関わ



てこられていますが、その間の学生の気質ほどの程度変わってきていますか。関根 早いもので 30 年になります。昔の学

生は周りとの和を大切にするという側面がありました。今の学生は非常に真面目で、自分の生活を大事にするため、みんなで何かをやるという気持ちが若干少ないように感じられます。ですから授業中もおとなしい。大学の行事に対してもあまり積極的じゃない。真面目なことはいいんだけど、もっと覇気が欲しいと思います。

——先生からご覧になって、これからの大学教育にはどんなことが求められるとお考えですか？

関根 日本大学は通信教育では老舗で

すが、ここ最近の傾向として、編入生が約6割に増えています。編入生の学力レベルはかなり高く、入学の目的もしっかりしている人が多い。こういう学生を受け入れるわけですから、授業の質についてもカリキュラムをしっかりと構築していく必要があります。目的に沿った内容を作っていかなければいけないと考えています。



《メディア教材の製作に腐心》

——ところで、以前の教材は紙媒体が主流でしたが、最近は大分変わってきているようですね。

関根 そうですね。今はいわゆるメディア授業です。文科省からの打診に基づいて通信教育部は平成16年にメディア授業を開始しました。通常のスクーリング参加ですと、遠方の学生は交通費や宿泊費など時間的、費用的に困難が伴いますが、メディア授業ですと、在宅でも受講できる利点があります。こうしたことも含めて、日ごろからかなりの学生が受講しています。

——受講の方法は？

関根 オンライン授業ですね。パソコンに授業が配信されます。登録した授業科目をアクセスするとそれぞれの科目の授業の画像で受講できます。

——そのコンテンツは日本大学の通信教育部が作り上げたものですか？

関根 通信教育部が主体となり作りました。文科省から「通学課程と同じような臨場感をメディア教材に盛り込んで欲しい」と言われました。かなり難しいものでした。私たちは動画・静止画・図表や説明文など、すべてを盛り込みました。写真やビデオも必要な場合は著者の許諾を得たうえでリンクさせています。学生は自宅でパソコンを開いてアクセスすれば良いようになっています。

——双方向でやるのですか？

関根 双方向ですが、非同期となっています。先生と学生が同時にいなくてはならないのではなく、学生がそれぞれ好きな時にアクセスすればいい。質問があればパソコンで質問してもらえば、先生方が出来るだけ早いうちにパソコンで回答する、というやり方です。だから非同

期双方向なんですね。科目の試験も、試験会場に行かなくともパソコンでレポートを提出することになっています。すべてレポート試験です。

——ずいぶん変わりましたね。紙教材とメディア教材の使い分けは？

関根 基本的に両方の2本立てになっていますから、好きな方を選べばいいわけです。全ての人がパソコンを使いこなせるわけではないですからね。たとえば、スクーリングに出るか、代替するメディア授業で単位を取るかは学生の方で選ぶことになります。

《大学入学の地方分散化》

——最近の大学事情についての問題点などは……

関根 文科省の方針として、学生の都会への集中を防ぐために、地元で大学があればそちらに入学してもらう、という方向になってきています。大学の入学定員の倍率を厳しく規定して、都市部の大学の入学集中を防ぎ、地方への入学者を増やしていく。平成28年度の入学定員の倍率は1.17倍未満と規定されていますが、来年度は1.14倍、再来年度は1.10倍というように、入学定員を厳しくして学生の都会集中を防ぐということです。

——大学も様変わりするというのですか？

関根 これからは都心の大学も経営が厳しくなります。現在、地方の大学は定員割れが多く、四年制で約半分ほど、短大では約7割が定員割れの状態です。大学の淘汰はもう始まっています。

《校友会・学生・大学、それぞれの課題》

——大学というのは研究者を育成することも必要ですが、ある意味での社会に人材を供給する、という大きな役割を担っていますね。

関根 はい、キャリア教育が非常に重要です。在学中から出来るだけ多くの資格が取れるようになればと思います。通信教育部でも、以前は経営学検定、現在はビジネス著作権検定というものを年に2回行っています。ある意味での職業教育的な課外授業です。受講生は10名ほどですが、学生の皆さんには出来るだけ資格をとって欲しい、ということで実施しております。

——通学課程では、ゼミでのディベートを中心とした教育も充実していますが、通信教育課程ではそのあたりが弱点では？

関根 今は違うんですよ。アクティブ・ラーニングと言って、学生に問いを投げかけて学生に考えさせる、という手法があります。通信でも結構行われています。

——以前、校友会の学生さんと話す機会

がありました。学生が言うには先生方ともしっかりと密着してディベート教育を受けてみたい、という声が多くありました。

関根 そういう学生の気持ちを吸い上げるためにも、講義の中で問いかけをして、学生に考えさせることをしなければいけないですね。また、オフィス・アワー(教員と学生の面接対話)や学生相談も頻りに開設していますから、いつでも話をしに来て戴く体制は出来ています。

——その他、学生の要望についての対応策のようなものはありますか？

関根 入学目的として、職業上必要な知識の習得という目的が全体の約1割を占めます。通信教育部として、就職サポート、相談室や講演会の開設などを行っています。また、校友会と学生と大学、この三者間の深いつながりが大事になっています。特に本学を卒業した校友会の皆さんが社会でどのような活躍をされているのか、どんな方がおられるのか、学生が何を求め、何を必要としているのかを、お互いに知って欲しいわけです。現在そういう交流の場を、今年の夏の「集夏祭」に設けることを計画しています。学生たちにもっと校友会に関心を持ってもらって、お互いに活性化出来ればいいですね。

《大学の英語教育》

——最近、グローバル教育がかなり叫ばれています。大学での英語教育についてはどうお考えですか？

関根 大学としては当然、英語教育を高め、力を入れようとしています。英語だけの授業も必要と考えられます。通信教育部には高いレベルの英語力を持った学生も沢山いますし、先生方にも優秀な方が多くおられます。ただ、日本語を忘れちゃ困る。しっかりとした、きれいな日本語をしゃべり、かつ英語も出来る、というのがこれからの学生に必要なですね。すでに、小学校でも英語教育が始まりました。小学校の先生方も英語教育の免許が必要となっています。中学校でもそうです。通信教育を受講して英語教育の免許を取ることが制度化されて、この4月から始まっています。

《山田顕義先生の『和魂洋才』》

——これから大学が育成すべきは、どのような人材とお考えですか？

関根 日本大学は、学祖・山田顕義先生が中心となって創られた歴史ある大学です。先生は『和魂洋才』のお考えを持っておられた方です。この建学の精神を、我々は受け継いでいかなければならないと思います。日本人の心、儒教的な考え方、それとグローバルな視点の広がり、これが大事です。いわゆる『和魂洋才』という考え方を受け継ぐ学生を育てたい、というのが私の気持ちです。そうい

う意味で、通信教育部のメディア授業科目の中に自校史教育として「日本大学史」を創りました。日本大学の歴史というものをきちんと押さえておかないと、立ち位置が分からなくなります。通信教育部には長い歴史があります。昭和23年11月2日に創立されており、この11月で68年目。あと2年で創立70周年です。この長い歴史を踏まえて、日本大学全体の中で通信教育部がどうあるべきかを、きちんと考えて行こうと思っています。

《日本・米国・英国、それぞれの通信教育事情》

——先生が携わられている「通信教育という授業の方法」にはどんな問題点があると思われますか。

関根 時間的・地域的に制約されている人が多いということですね。したがって、制度的にも多面的なものを用意していないと需要に応えられない。そこが難しいところです。

——通学課程と比べてハンデとなりませんか。

関根 通信教育の場合は、職業や学習の習熟度など様々な人がいますから、そういう方々を全て受け入れて、講義の質を大事にして、すべての人が同じ方向を向いて卒業という目的を成就出来る、そのように努めなければなりませんね。

——通信教育部の現在の学生数や卒業生数はどのくらいですか。

関根 在學生は約6,500名ほど、新入生は春期入學生が約1,400名、秋期入學生が約400名。卒業生数は春秋合計で年間約600名ほどです。

——通信教育のグローバル化について、もう少しお聞かせください。

関根 グローバルな捉え方をしますと、通信教育というのは多くの国でシステムが出来ています。特にアメリカやヨーロッパで発達してきたわけです。アメリカの場合は、もう全てオンラインが可能となっています。ヨーロッパの大学ではスクーリングをかなり重視しているようです。つまり、コンピュータだけで単位を取るのではなく、フェイス・ツー・フェイスで対話を大事にする。こういう点で、アメリカとヨーロッパは違うんですね。

——その点を先生はどうお考えですか。

関根 やはり、フェイス・ツー・フェイスが大事ですね。オンラインでのメディア教材をつくる場合も、やはり臨場感あふれるやり方をしないとダメです。先生方が工夫をして対話に近い形に持っていないと、メディア授業はうまくいきません。

——通信教育の場合、日本とヨーロッパの学生の違いはありますか。

関根 ヨーロッパの学生は、勉強が結構ハードですね。読書量も向こうのほうが

多いと思います。

《大学と校友会の コラボについて》

——ところで、関根先生が通信教育部に
関与されてから30年になると伺いましたが。

関根 はい、非常勤講師をやったあと、昭和61年に通信教育部に奉職、専任講師としてスタートしました。今年の7月で満30年になります。私は最初から通信教育部に奉職しましたので、通信教育部に愛着があります。しっかりと学生を育てていこうと思っています。

——校友会の方もよろしくお願ひいたします（笑）

関根 そうですね、一体化して考えないと（笑）。

——大学として校友会に望んでいる事は何でしょうか？

関根 先輩OB、OGにどのような方がいて、どういう仕事に就いているのか、その情報を学生は得たいと思っています。そのための情報発信の組織であって欲しいと思います。仕事を見つける時など、学生が気楽にコンタクトが取れて先輩



に話を聞きに行ける、そのような関係であって欲しいですね。その関係が今は切れてしまって、学生との接点がなくなっていますね。意識するのは卒業の時だけになっている。ですから冒頭に申しましたが、この夏に初めてやろうという企画もその点を踏まえてのことです。

——日本大学校友会は長い伝統がありますね。ましてや校友会独自で会館（桜門会館）を持っているというのは、これはもう大変なものです。

関根 そうです。おいしいお酒を飲みながら談笑できるサパークラブのようなものがあればもっと好いかな（笑）

——このところ、新卒者の校友会への加入が極端に少なくなっています。この点で大学と校友会の双方が協力できることはありますか。

関根 大学側からも積極的に情報発信して、ネットワークを良くして、校友の皆さんと接していくことが大事だと思います。更に、校友会と学生と大学とが一体化できることが大事ですね。校友会には優秀な方が多いわけですから。そういう方に出ていただいて協力して頂ければ良いかなと。学生にとっては、実務を教わる事ができる訳ですからね。

——校友会にはどのような可能性が考えられますか。

関根 校友の皆さんの親睦を図ることが基本ですが、学生に対して何かPRできないか。校友会ここに在りという、そういう場が今はありませんね。再三申し上げますが、この8月に行おうと考えていることとして、OBの皆さんが随時集まって何かイベントを打つ。例えば物産展を開いて、収益を災害復興に役立てていただくとか、こういうことは校友の皆さんのご協力がなければできません。

《オープン受講制度と 生涯学習》

——大学と校友会とが組めるものとしては、生涯学習のプログラム作りなどが可能な、という気がします。

関根 実は昨年度に通信教育部では、オープン受講というものを開始しました。大学の講座を社会人の方々に開放して、スクーリング受講料と同額の1万円を収めれば、希望する科目を学生と一緒に受講できるというものです。学部の方には聴講生制度がありますから、これとタイアップして生涯学習センターとして管轄しているという考えを持っています。

——三崎町には生涯学習センターがありましたね。

関根 はい、20年ほど前、文科省の監督下に日大など多くの大学が生涯学習センターを作りました。私たちとしては、これを復活させたいと思います。OBや一般の社会人の方々にもっとPRして、生涯学習の一環として利用していただけると嬉しいです。

《自衛隊から日大へ。奉職30年》

——先生のご経歴についてお聞かせください。

関根 私は普通科の高校を卒業してから3年間、航空自衛隊の第7航空団でF104戦闘機のジェットエンジン整備をやっておりました。浜松の術科学校では、消灯後の廊下の明かりの中で勉強したこともありました。任期を終えてから日本大学法学部を受験、合格しました。それから大学院へ進み、法学研究科博士後期課程に進み満期退学しました。指導教授について勉強できるということ、これはドクターコースの醍醐味でしたね。

——法学部を選ばれた動機は？

関根 社会的な問題への関心ですね。日本の国や自衛隊のあり方と現状について、もともと関心があり、常に考えていました。

《エディット・ピアフと『正法眼蔵』》

——シャンソンがお好きですか？

関根 エディット・ピアフの歌がいいので

すね。それから『戦場のピアニスト』のような芸術的な映画も好きです。

——先生を変えた一冊の本は？

関根 影響を受けたのは、道元禅師の『正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）』です。人によって印象は様々ですが、とても大事なことが書いてあります。

《『杓底一残水』》

——好きな言葉は？

関根 これは道元禅師の高弟の句なんですが『杓底一残水、汲流千億人（しゃくていいちざんすい、流れを汲む千億人）』というものです。永平寺の門柱にこの言葉が書いてあるんです。自分で飲んだ柄杓（ひしゃく）の水を捨てることなく元の川に戻せば、他の人がまたその水を扱うことが出来る。つまり、分相応の利用に留めて取りすぎない、扱いすぎない、規を超えない、ということが必要だ、と私なりに理解しているんです。

《マンスフィールド大使のこと》

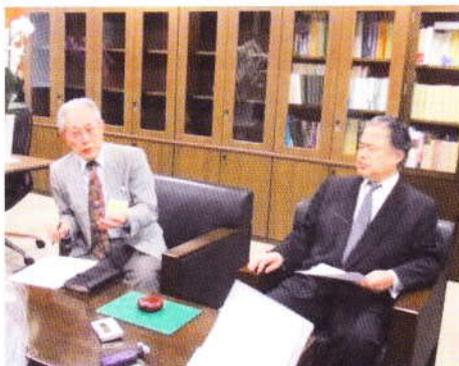
——尊敬する人は？

関根 政治家では、元アメリカ駐日大使のマイク・マンスフィールド氏ですね。とても謙虚な姿勢の人でした。

——どのような経歴の方だったのでしょうか？

関根 非常に苦勞して育った方です。ニューヨークに生まれ、7歳のとき母親が

亡くなり、父親も大怪我。親せきのもとに預けられました。15歳近くで海軍に入隊。陸軍、海兵隊を経験、銅鉦山で鉦夫もやりました。その頃、高校教師の女性モーリン・ヘイズ氏と出会い、のちに結婚。彼女から大学入学を勧められ、通信教育で高卒資格を得てからモンタナ州立大学に入り、大学の先生になったんです。やがて、モーリン氏から政治家の道



を勧められ民主党から立候補。下院議員に当選し5期、上院で4期の後、上院院内総務。民主党カーター政権の時、日米の橋渡し役として、第22代アメリカ駐日大使として日本にやってきました。こういう人でした。

——すごい人生ですね。

関根 非常に謙虚な姿勢を持った人で、お客さんには自分でお茶を入れたり、また常に自分は一兵卒だと語っておられたようでした。そして、妻のモーリン氏

がいなければ自分の人生は無いんだ、とも言っておられました。ジョン・F・ケネディ氏とも仲が良かった。庶民的な方です。

《人との出会い》

——これまでの人生で一番嬉しかったことは？

関根 それは日本大学に入学できたことが、嬉しかったです。そして、節目節目でいろいろな方に出会えたことも嬉しいことですね。

——先生を突き動かす原動力はどのようなものしょうか？

関根 あきらめない気持ち、志を持って、それに向かって努力していくということ、これが大事なことだと思います。

——有り難うございました。

——関根二三夫教授のご経歴——

昭和26年生まれ。航空自衛隊勤務の後日本大学法学部に入学。大学院法学部研究科に進み、博士後期課程満期退学。

- 昭和61年 通信教育部専任講師。
 - 平成14年 通信教育部教授
 - 平成24年 通信教育部次長
 - 平成28年 通信教育部長に就任。
- 憲法学会常務理事・事務局長。

日時：平成28年4月26日
場所：日本大学通信教育部・部長室
開き手：金子栄輔・富沢良光・高木典章

本部校友会・総会スナップ (5月23日)



総会風景



上は、当日ご講演頂いた、昭和39年の東京オリンピック男子団体、個人吊り環で金メダルを獲得された日本大学の早田卓次先生



特別表彰の森下さん 100歳



校歌の音頭を取る
谷島義枝元応援団長

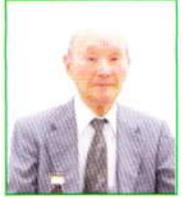


懇親会風景、乾杯の音頭は当支部の三上英子さん

東京都支部総会開催される

東京都支部総会は5月14日、通信教育部校舎1号館、ミーティングルームにて開催した。15名の会員参加のもと、事業報告、収支決算、並びに事業計画、予算案ともに満場一致で承認された。

また、本年度は日本大学東京都支部・校友会公認名刺(100枚2,000円)を作成することとした。なお、本総会に出席した会員には50枚を無償で配布された。



支部の重鎮(左上から時計回り)石川、松川、川熊、鈴木の各氏



左から橋本さん、山川さん、山村さん 林、高木、川井、篠、白戸会長の各氏

懇親会風景

平成27年度(第49期) 決算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

《収入の部》 (単位:円)

科目	決算	摘要
会費収入	276,000	会費納入会員数 108名
臨時会費収入	43,500	総会出席者 13名
本部補助収入	135,840	84号/85号/総会補助
広告収入	87,000	計28名
寄付金収入	0	該当なし
受取利息	74	郵貯銀行利息
雑収入	0	該当なし
小計	542,414	
前期繰越金	321,384	現金/郵貯/振込口座
合計	863,798	

《支出の部》

科目	決算	摘要
臨時会費支出	29,550	総会費 29,550
会議費	0	該当なし
旅費交通費	0	該当なし
事務消耗品費	8,770	プリンター用紙他
通信費	15,488	総会案内他
印刷・発送費	417,850	会報84・85号印刷封入他
諸雑費	18,199	活動助成金、勧誘費他
事務所移転費	0	該当なし
小計	489,857	
次期繰越金	373,941	現金/郵貯/振込口座
合計	863,798	

平成28年度(第50期) 予算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

《収入の部》 (単位:円)

科目	予算	摘要
会費収入	300,000	会費納入会員数 130名
臨時会費収入	100,000	総会・忘年会、その他
本部補助収入	115,000	会報発送料、本部補助分他
広告料収入	100,000	大江戸通信名刺広告料
寄付金収入	5,000	会員有志からの収入金
受取利息	100	郵貯銀行利息
雑収入	5,000	科目外集入金
小計	625,100	
前期繰越金	373,941	現金/郵貯/振込口座
合計	999,041	

《支出の部》

科目	予算	摘要
臨時会費支出	100,000	総会費他
会議費	20,000	役員会議費用
旅費交通費	5,000	
事務消耗品費	10,000	
通信費	16,000	総会・忘年会・案内状他
印刷・発送費	430,000	会報印刷封入費
諸雑費	50,000	研究会活動補助、予備費
小計	631,000	
次期繰越金	368,041	
合計	999,041	

平成28年度関東ブロック総会・茨城県大会 本年10月16日開催決まる



開催要項

- 開催日：平成28年10月16日(日)～17日(月)
- 会場：ホテルクリスタルパレス(JR勝田駅)
茨城県ひたちなか市大平1-22-1 電話 029-273-7711
- スケジュール
◎第1日目(10月16日(日))
参加受付：12時50分～13時30分
ブロック役員会：13時00分～14時00分
ブロック総会：14時00分～15時30分
体験発表・健康体操：15時45分～16時45分
懇親会：18時30分～20時30分
◎第2日目(10月17日(月))
国営・ひたち海浜公園散策 自由参加
入場料・乗り物等各自負担・流れ解散
- 参加費：
Aコース：18,000円 総会+懇親会+宿泊
Bコース：10,000円 総会+懇親会
Cコース：2,000円 総会
参加費は当日受付にお支払いください。
- 参加申込み：お仲間同士で連絡を取り合って8月25日までに東京都支部・金子支部長(080-5032-1467)にお申込下さい。
- その他：東京都支部の皆さまの多くのご参加をお待ちしています。

全国各地のブロック総会開催日決まる!! (お時間があれば全国の校友と交流してください)

- 近畿ブロック総会：7月23日(大阪府)
- 中国ブロック総会：8月28日(岡山県)
- 四国ブロック総会：9月13日(高知県)
- 東海ブロック総会：10月1日(静岡県)
- 北信越ブロック総会：10月8日(富山県)
- 東北ブロック総会：10月16日(秋田県)
- 関東ブロック総会：10月16日(茨城県)
- 九州ブロック総会：10月22日(大分県)

通信教育部校友会図書館ご著書ご寄贈のお願い

図書館長・熊本昭典

日本大学通信教育部を卒業以来、ご自身の手でまとめられた出版物など校友の図書作品を一堂に集めた図書館へのご出展をお待ちしています。詳細は平成28年1月1日号に記載しています。

- ご自身で創作した作品に限ります。
- 共同創作もしくは同人誌の場合はご自身の著作が全ページの10分の1以上あること。
- 句集・詩集など総ページ数が70頁未満の場合は、2項は当てはめない。
- 原則1人2冊以内。出展数が3冊以上の場合は事前に事務局にお問い合わせ下さい。
- 予算の関係で有料購入はいたしません。原則「ご寄贈」をお願いします。

☆☆☆ 東京都支部校友会・平成27年度会費納入者のご紹介 ☆☆☆

平成27年度の支部会費は下記の皆様方よりお支払いいただきました。東京都支部一同厚く御礼申し上げます。

【1口】平野栄子・松本幸子・西川綾子・館 聖・林 輝代・川井政和・石井啓之・高橋昭昭・松尾智代美・鎌田富貴子・井上 泰・阿部芳人・新山貞一・牧田守弘・田口浩子・吉村益吉・三井和子・平 祥子・志方千鶴子・土屋 豊・鎮目陽子・松本なを美・麻賀和子・島崎昭生・熊倉 誠・高宮正和・酒井和子・上野明子・佐戸美代子・荒船勇次郎・矢吹直樹・宮澤三枝子・本多和子・五十嵐登・高木智宏・須田一彦・宇津木淑子・高木典章・成宮眞理子・佐藤友彦・古川一夫・榎原志津枝・清水千珠子・斎藤 寛・望月 稔・村越 裕【2口】玉井孝丸・千葉太介・水口 浩・野口 昭・森 逸男・松川正登・平原隆志・石川寿朗・壁谷公江・吉岡友子・渡辺美奈・小野すみさの・近藤裕・富山 賢・西島裕行・森下憲次・熊本昭典・野澤貞雄・大月郁夫・岡野直行・眞船洋二・吉村立雄・金 永姫・竹田紹二・中村友香・小池康夫・小西康則・新田貞次・貝塚英雄・桑原隆弘・土田 修【3口】岡本良平・富澤良光・瀬尾香保子・黒坂知子・高山紀男・鈴木義彦・田高寛直・田中瑛也・神津千恵美・荒井澄子・脇岡聖一・斎藤和子【4口】内藤セツコ・多田英治・鈴木勝・吉武香代子・橋本アサ子・マクリン幸子・蛭名 正・白戸忠志・山本克子・佐伯信應・川熊長子【5口】新田園子・内田多真喜・鈴木孝司・林 晃弘【6口以上】佐竹さち子・小野智恵子・金子栄輔・三上英子・中原照雄・宮川美和子

(※平成28年度以降の会費振込料は支部負担とさせていただきます。今後ともよろしくご協力をお願いいたします)

編集後記

《巻頭特別インタビューを終えて》 校友会への要望として関根部長が語られた中に、印象的な部分がある。一つは校友会が学生に対する「情報発信の組織であって欲しい」という個所。もう一つは「校友会ここに在りという、そういう場」を創出すべきであるという個所。いずれも校友会が親睦団体として発展するにとどまらず、さらに大学・学生・そして自らを「一体化」していく強い気概と実行力を備えた機関になるべきだ、とのご発言であると思う。今後の校友会に大きな示唆を与えて下さったのではないかと。(編)